

同窓会会報

題字・村上孝夫先生

第二回定例総会報告

第二回薬学部同窓会定例会が、

平成元年七月二十三日（日）、東京理科大学10号館において開催された。当日提案された議題はすべて原案通り可決され、内容は別記の通り。議事終了後、NHK生涯教育部ディレクター伊丹政太郎氏によるアジアの伝承医学についての講演と懇親会がもたれた。

薬学部同窓会主催講演会

NHKディレクター伊丹政太郎氏を迎えて

薬学部同窓会活動の一環として初の講演会を去る七月二十三日の定例総会終了後、東京理科大学10号館にて開催した。講師としてNHK生涯教育部ディレクター伊丹



伊丹政太郎氏

政太郎氏を招き、「比較・アジアの伝承医学—中国・インド・イスラム圏—というテーマでお話を伺った。アジアの伝承医学には、中国の中医学、インドのアユルベータ医学、イスラムのユナニ—医学の三つの大きな流れがあること、それぞれの医学の共通点・相違点、

恩師登場！

「日本薬剤師研修センター」について

辰野 高

昭和六十一年十月に二十年ぶりに東京理科大学II部化学科の専任教授として神楽坂に帰って来て、平成元年三月に定年退職する迄、私は本当に充実した生活を送ることができたと感謝している。その間、薬学部在職した頃に研究生

活を共にした上野、鈴木両教授をはじめ、東大時代の兄弟弟子の山川教授等々、旧知の薬学部の仲間を支えられて、実りの多い日々を送ることができ、また諸岡信久君の献身的な助力で、理研時代にやり残した「松枯れ」の仕事も、私



伝承医学の現状と将来などを、美しい、しかも珍しいスライドをまじえて講演していただいた。



恩師登場 / 辰野 高先生

としては思い残すことなくできたことを大変に感謝しています。
理大在職中から、日本薬剤師会の常務理事として、薬学教育委員会、生涯教育委員会の仕事を一手伝いしてきましたが、理大を退職した後は、引き続き薬剤師会の仕事をしながらも、時間的にも余裕ができましたので、余生の仕事と

して「昭和の薬学史」にぼつぼつ取りかゝろうと準備していましたが、ところが五月になって、高木敬次郎日本薬剤師会会長から、新しく出来る、財団法人日本薬剤師研修センターの仕事を引き受けるようにとのお話があり、以来財団法人の設立発起人会、設立認可申請、第一回理事会評議員会の開催、新

しい事務所の開設、整備等、今年の夏は全くの天手占舞で、私を含めて僅か四人の職員で運営して行かねばならないので、夏休みのない夏を久しぶりで過すことになった。

この財団法人は「各職域、地域で行われる薬剤師の研修を相互に関連調整し、より有効に実施する

こと」を目的として設立されたもので、この主旨に賛成した日本薬剤師会、日本病院薬剤師会、日本製薬団体連合会、日本製薬団体連合会、日本医薬品卸連合会、日本私立薬科大学協会、日本薬学会等より基本財産が醸出され財団法人として設立された。そして今年度は「医薬分業推進等教育事業費」として厚生省より一、二一七万円の委託事業費が与えられている。本年度の第一の事業は、この目的達成のため、薬局薬剤師、病院薬剤師の将来の研修活動が円滑、かつ有効に行なえるように、「指導者の育成」を目的とした研修を行うこととし、目下大車輪の努力を続けている。
現在は諸兄弟が新聞紙上に掲載される記事からも読み取られるように、医薬分業が国家の施策として進められようとしている。

高齢社会の到来、感染症が克服された後に出てきた慢性疾患に対する医療体制の整備のため、明治初年以來、懸案となっており、そして薬剤師百年の悲願でもあった医薬分業への追い風が、かつてない形で吹いている。この追い風を正しく受けとめ、発展させていくためには、全薬剤師が一丸となつて努力しなければならぬ時に来ている。医薬分業の不徹底であったことは、日本の医療に大きな歪みを与えたばかりでなく、薬学教育の面でも大きな影響を与えられており、基礎薬科学の発展、創製薬面の発展が世界の注目を集める程の教育効果をあげて来た反面、患者へ医薬品を適用する場面での科学・技術教育の面で、若干の不備があったことはいふまでもない。
日本薬剤師研修センターの役割のひとつは、従来不備であったこの面を早急に補充するための生涯研修に当面は主力を注ぐべきであると考えている。しかし何より大切なことは、センター設立の主旨が、全薬剤師の効率的な生涯教育の推進にある以上、この研修センターが真に「総ての薬剤師の為になるセンター」となるためには、このセンターが総ての薬剤師に支えられ、そしてセンターは支えて下さっている総ての薬剤師の生涯教育に有効になるような活動をしなければならぬと考えている。
センターへの寄附行為(定款)

には、賛助会員という制度が設けられていますが、私達は、全薬剤師がセンターの賛助会員になっていただけることを夢見ている。

薬学部同窓会の会員及び教職員の方々が一人でも多く、賛助会員としてセンターを支えていただければ、是非お願い致しますと思っ

ている。このお願いを実現させていただくために、「賛助会員募集」のパンフレットを御掲載いただくことをお願いした。

残念乍ら、現在は私達のセンターは資金的にも、マンパワーの面でも弱体であり、賛助会員になって下さった方々におむくいすることが充分には出来ないことが大変に心苦しいのですが、3年後を目途に、「賛助会員になって支えてやって良かった」と思われるセンターにして行きたい、そのために努力をしたいと考えていますので、是非理大薬学部同窓会の皆さんの御参加をお願いする次第です。

(賛助会員になって下さる方々はセンターへお申し込み下さい)

(財)日本薬剤師研修センター

賛助会員ご加入のお願い

事業概要

- (1) 薬剤師の各種研修等のカリキュラム、指導要領及び評価基準等の作成
- (2) 薬剤師の研修協力機関等の指定
- (3) 薬剤師の研修協力機関に対する指導及び助成並びに研修指導者の育成
- (4) 薬剤師の各種研修を実施する団体等に対する指導助言及び研修協力機関等の斡旋
- (5) 各種職域における初任者教育のための研修及び継続教育のための研修の実施
- (6) 各種研修の修了者に対する認定
- (7) 薬剤師の研修に関する調査研究

及び国際協力

- (8) 薬剤師の研修に関係する団体及び関係官庁等との連絡調整
- (9) その他、本財団の目的を達成するために必要な事業

賛助会費

- (1) 賛助会員(個人)
 - 一口 年額 一〇、〇〇〇円
- (2) 特別賛助会員(団体、法人、又は個人)
 - 一口 年額 一〇〇、〇〇〇円

(財)日本薬剤師研修センター

〒一七〇 東京都豊島区南大塚
 電話(03) 94615936
 FAX 94614543

新役員決まる

同窓会設立三年目を迎えて、初の役員改選が行われました。小原会長には多忙にもかかわらず、続投をお願いしてお引き受けいただきました。この度完成した名簿を

見て、改めて同窓諸氏の多彩な方面のご活躍に驚くばかりです。理大薬学部卒業という共通のベースを持つ仲間のネットワークが、同窓会を中心にできあがれば良いと、

つくづく思います。

新メンバーを役員に迎えて、二期目がスタートしました。会員皆さんのご理解とご協力を得て、会の発展に努力したいと思います。よろしくお願いします(山口)。

第五回

薬学講座開催

石井 賢二(七期)
峰村治子(二十四期)

第五回東京理科大学薬学講座が、平成元年十月一日理科大学十号館

において薬学部主催、東京理科大学学生生涯教育センター後援、薬学部同窓会協賛のもとに開催された。今回の出席者も前回同様百三十名を超え、毎回出席の同窓生もかなり見受けられた。講師の先生と講演タイトルは左記の通りである(敬称略)。

- 総務 桑原 亮吉(五期)
- 会計 海保 房夫(十期)
- 広報 宇留野 強(四期)
- 名簿 西谷 潔(八期)
- 企画(事業計画・財務) 家原喜八郎(二期)
- 光井 英基(二期)
- 金親 肇(三期)
- 加藤 優子(五期)
- 根本 幸夫(六期)
- 池田 幸雄(四期)
- 田中貴代子(十一期)
- 番場不二子(二期)
- 桑原 亮吉(五期)
- 海保 房夫(十期)
- 小島恵理子(十一期)
- 宇留野 強(四期)
- 山田 高久(五期)
- 小暮 涉(十一期)
- 岡宮 智子(十一期)
- 和田 浩志(十五期)
- 西谷 潔(八期)
- 西園 大実(十九期)
- 家原喜八郎(二期)
- 光井 英基(二期)
- 金親 肇(三期)
- 加藤 優子(五期)
- 根本 幸夫(六期)
- 中島 勝明
- 興和株式会社東京研究所
- 「止血のからくりと血栓症」
- 「皮膚外用療法について」
- 防衛医科大学校病院皮膚科 学教授 久木田 淳
- 「中毒情報(発生頻度の高い中毒)」
- 筑波大学附属病院救急部長 山下 衛
- 「医薬品情報の収集と管理」
- 東京理科大学薬学部助教 福室 憲治

薬学部ニュース

☆昭和六十三年十一月二十六日

ホテルグランドパレス(飯田橋)

において村上孝夫教授ご定年記念パーティ。

☆平成元年三月二十日

武道館において昭和六十三年学位記・卒業証書授与式。薬学部関係では、博士課程一名、修士課

程四十六名、薬学科九十七名、製

薬学科七十名に学位記または卒業証書が授与された。

☆平成元年四月九日

武道館において平成元年度入学式。入学生数は、博士課程二名、修士課程五十一名、薬学科百七名、製薬学科九十五名。

薬学部同窓会

入会のご案内

平成元年三月現在、会費納入会員数は六百七十三名です。昨年度より百十八名増えております。種々の活動を行う上にも一人でも多くの卒業生にご入会いただき、しっかりとした薬学部同窓会基盤を作りたいと願っております。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。納入の際、住所、氏名その他「卒業

年次」も必ずご記入下さい。なお、郵便振替払込金受領証をもって領収証および入会手続き完了証にかえさせていただきます。

- * 入会金 二〇、〇〇〇円
- * 年会費 一、〇〇〇円
- (五年に一度五、〇〇〇円を徴収)
- * 終身会員 五〇、〇〇〇円

(入会金を含む)

募集!!

☆会報へ広告を!

会報に掲載する広告を募集しています。同期会への呼びかけなど内容はなんでも結構です。会報発行への賛助金としてご協力下されば幸甚です。

一段横二分の一・・・一万円

詳細は同窓会事務局まで葉書・書状でお願い致します。

☆お願い!! 投稿して下さい。

会報に掲載する原稿を募集しております。内容は自由です。

名簿委員会からのPR!!

ちょっとおしゃれな

薬学部同窓会名簿ができました!

同封の振替用紙で代金をお支払い下されば、早速お送り致します。代金は送料込みで

会費納入者：二、五〇〇円
会費未納者：三、五〇〇円

*ご自身または薬学部同窓会会員である知人友人の住所等の変更など、お気づきの点がありましたら、ぜひ事務局まで「葉書」でご連絡下さい。

同窓生だより

北から南から

ジャカルタだより

Jalan Kartanegara
Kebayoran Baru
Jakarta, Indonesia

長岡 洋子(二期生)

ここジャカルタに来て早いもので丸三年が過ぎてしまいました。十八年前の滞入も入れると五年以上になります。住みやすい所ですが、一年中三十度以上のところ

すので、お正月ですら暑くて暑くて大変です。四季の変化がなく、何だか年を取らない気がします。お金さえ出せば日本のものは何でもあり、今(十月)日本人向けのスーパーマーケットには栗・松茸まであります。

人件費がビックリするほど安く我が家でもお手伝いさんの女性二人(住み込み)・夜の門番(通いの男性一人)・運転手(通い男性一人)と、家族より多くいて、言

葉の問題・風俗・習慣などの差で時折イライラさせられています。暑い国なので凍死するなどということはありませんし、お金はなくともその日が楽しく暮らせば良しとする人達のようなです。

住んでいる家は千五百〜二千US\$位で日本のちょっとした幼稚園位あり、家も大きく立派でプール付きに住んでいる人も沢山います。我が家も次女が家に入ったら「ズットここに住んでもいい」

といったほどもです。

医療事情ですが、まず生水は水道水でも大腸菌が多くて飲めません。煮沸消毒しています。飲み水は(歯磨の水です)ミネラルウォーターを買っています。

子供が大きいので医師に掛かったことがありませんが、日本の大学を出て日本語ペラペラの先生が各分野にいらっしゃるので、皆さんそこへ掛かっているようです。

ただし診療時間が朝七時〜八時まで、夕方四時〜七時三十分まで自宅診療で、他の空いている時間はそれぞれ割当の病院でほとんど無給に近い奉仕の義務があるようです。それをしないと自宅での診療許可が出ないのです。

大病院以外のところに掛かると尿検査・血液検査は検査所、X線はその専門医へと、けっこうグルグル回り大変です。アメリカやドイツに留学した良い先生も沢山のらっしゃるようですが、言葉が通じなかったり、日本と治療方法が違うことがあり大変です。一番の違いは、コレラ・腸チフス等では隔離されず、自宅療養で直してしまいます。寝室・トイレを別にし

て、薬飲んで直ったなどと言っていますので、そのお子さんが遊びに来たら断わるうかなんて思っている間によくなくなっていたり、日本では法定伝染病なのにここはずいぶん違うのだと感じますが、日本へ帰ることも出来ないし考えさせられます。

薬局の方は二十年以上前より完全な医薬分業で、医師の処方箋なしには薬は手に入りません。ただし売薬はスーパーマーケットでも買えますし、日本の風邪薬・整腸剤・ビタミン剤・鎮痛剤・目薬など、何でも売っています。ここにも日本の製薬会社が合弁会社を作り、工場では日本と同じ薬・化粧品まで作っています。値段の方もこちらの方が安いです。

市内の薬局は、朝早くから夜は十時頃まで開いていて、何処へ行っても薬局が一番大きく、電気がコウコウといっています。薬学は六年制でその後一年間の病院勤務をしなくては免許ができません。医師・歯科医・獣医の次に難しいし、学費も掛かります。女の子には薬局の助手養成所があり(高校卒業後二年間)、そこを出て働いていま

す。アルコール等を買に行っても「エタノール」等と言っても言葉が通じないときに化学記号を書くとすぐに分かり、「何%?」なんて尋ねられます。

また中国人が沢山住んでいますので漢方薬もあり、肌が白くなる薬・毛はえ薬・痩せ薬、何でもあり、香港あたりより安く、日本人の奥さんなどは帰国前になると中国街に買い出しに行っています。

インドネシア特有の薬もあります。ジャムーといって籠の中にビンが沢山入っていて、煎じ薬を、ここでは珍しいくらい若くて綺麗な娘さんが籠をしょって、町中を売り歩いています。中味は強壯剤・産後の回復・お乳の大きくなる薬・胸焼け止め等百五〇〜三百ルピア(一円〇二ルピア)コップ一杯の値段です。ただし、どんな風にこしらえたか? そのピンは衛生的か? 考えるとちょっと試し飲みすらしたことがあります。それでも我が家のお手伝いさんが買っているのを見かけます(いわゆる家庭薬の煎じ薬が多いようです)。

取りとめなく書いてしまいまし

たが、次女が中三ですので来春には帰国する予定です。

この三年間で一番楽しかったのは、二期生約十名がツアーを組んで遊びに来てくれ、一緒にバリ島・ポロブドール・ポゴールへと楽しい旅行をしたことです。ではまた日本でお会いする日を楽しみにしています。

辰野 高先生ご夫妻を囲む会

七月三十日(日)に港区六本木の国際文化会館に於いて三時〜六時まで微生物研究室の卒業生(一期〜六期まで)三十四名が集まり、辰野先生ご夫妻を囲み、先生を励ます会がもたれました。また、上野芳夫先生をはじめ、諸岡信久、家原喜八郎、富田紀子、山田良子の諸氏も出席され、有意義な会にすることが出来ました。辰野先生は日本大学薬学部より理大薬学部微生物学教室の教授として着任されて以来、その後理化学研究所主任研究員、理大理学部化学科教授、日本薬剤師会常務理事などの職務を完遂なされ、最近日本薬剤師会

研修センターの専務理事兼事務局長に就任されました。先生は私も多くの人々の仕事と深く関係のある医薬分業と生涯教育に力を注いでおられます。先生より研修センターでは事業運営資金確保の為に賛助会員を募るので卒業生にぜひ協力してほしいとのお願いがありました。(〒一七〇豊島区南大塚二の十の一、会館テイケイ薬局三階、TEL:03-3946-1593二六)



遅くまで話し合いました。

幹事 窪田幸夫（一期生）

中村洋司（三期生）

加藤優子（五期生）

街かどの薬局から

飽食時代の栄養不足

阿部秀子（一期生）

人口二十三人余りの地方都市の水戸駅から車で約十分のところ
に薬局を開いて四年になりました。
当時は農家ばかりでしたが、今では住宅、店舗、事務所などが立ち並び、比較的若い人が住むようになり
ました。したがって、必然的



に客層も若い人たちが多いわけですが、接客をしていて最近、強く感じることはありません。それは食卓が貧しく、栄養のバランスを崩している人が如何に多いかと云うことです。全身性の皮膚炎、アレルギー疾患、便秘などの悩みを訴える人たちのほとんどが、肉ばかりで、緑黄色野菜を食べていない事がわかりました。また、外食産業が発達した結果、そこで食べる料理が家庭でも理想の物とされているくらいがあります。野菜と云えば、サラダで一年中、レタス、きゅうり、トマトしか頭に浮かんでこないようです。先日、よく風邪をひく子供のお母さんに「今

はかぼちゃを沢山食べるとよい」と話したところ、「あれは面倒で……どうやって食べたらいいんですか？」と言われてびっくりしてしまいました。また、アイスクリームギョルと名づけた大学生は、唇がカサカサに乾いて両端が割れて痛いと言っていたが、その子の食事はアイスクリームばかりで、青野菜と云えば「しその葉」だけでした。自宅通勤をしているというこの子の家庭の食卓はいったいどうなっているのでしょうか？

原稿用紙を前にしていると、食原病と思われる人たちがつきつきと思ひ出されます。家庭の食生活すらしっかりしていないのですから、一人暮らしの食事はいわずもがなの状況といえます。食生活が如何に健康と密接に関係しているかということを知って頂く様になら、毎日お客様と接していま

南国沖縄から

大橋弘道（三期生）

私は、この南国の地、沖縄に住んで早や九年になろうとしていま



す。もともと、北海道生れの私ですが、故あって病院の経営の一員として、苦勞が絶えませんが、何とかがんばっております。さて、同じ日本でもこの沖縄は、どこか違うという思いを、最近益々感じております。来た当時は、見るもの、聞くもの全てが物めずらしく、新鮮でかつ教えられることも沢山あり、二、三年はその魅力にとりつかれ、沖縄に来て本当に良かったなあと思ひました。特に、沖縄の人達の人情の厚さ、他人を許す心や傷つけまいとする配慮、そして自然の素晴らしい、常夏の気候……ここに来るまでは、会社勤めの厳しさを良きにつけ悪しきにつけ、

味わってきた私にとっては、別世界のよう感じたのは当然かもしれませぬ。しかしこうした甘い生活（仕事は厳しいものであります）は、この地での生活に馴れるに従って、職場や地域の人達との関係がどうも、こちらの思いどおりにいかないことが目につき始めました。仕事を頼んでも、まず期日までに完成しない、報告もない、勝手に休む（仕事よりも行事が最優先）といった調子であります。沖縄では自嘲の言葉で「テーゲー社会」といわれています。この意味は、物事ははっきり白黒をつけないで曖昧にするとか、まあまあこの辺でいいだろうというようなことですが、私のような相当弾力性のある人間でも、毎々こういうことがあると、神経が参ってしまいます。しかし、沖縄の人達からみると、こういう風潮は、歴史的にみれば、必然性があつたからだと思います。もともと沖縄は、同民族や異民族から支配された時代が長く続き、どうすれば生き残れるかが真剣な問題です。従って施政者に対しては「テーゲー社会」が最も安全な方便だったと思われま

す。それが現代でもまだ抜けきれず、私をいらいらさせているのでしよう。考えてみれば、こういう社会がストレスもなく、長生き出来る本当の理想郷なのかもしれません。

とはいうものの、私もこの社会にべったり浸ってしまっただけ、病院の存続自体があやうくなってしまう。

今日も私は、いつかは、私のやる事を解ってくれるものと信じて、孤軍奮闘努力しています。

第四十九回国際薬学 会議に参加して

加藤優子（五期生）

平成元年九月四日〜九日まで、西ドイツのミュンヘンで国際薬学会議が開催され、私は日本薬剤師会会長の高木敬次郎先生ご夫妻のひきいるツアーに参加いたしました。八月三十一日にイタリアのミラノに着き、アルプスを列車で越えてスイスのルツェルンに。ユングフラウヨッホに登り、二日にミュンヘンに入りました。会場はガスタイクフィルハーモニック&コン

ペンションセンターで六十ヶ国二千人が参加し日本からも七十名行きました。会議登録料DM七百、クロージングディナーDM百二十（DMハドイツマルクV七十七五円）通信費二千五百円の合計約六十四万円を日本で支払って行きました。会議登録後、ショルダーバッグに入った資料集を受け取り、同時通訳は英独伊仏語。壇上には黒のグランドピアノが置かれ、各界代表のあいさつ、一九八九年へストマドセンメダル授賞式、その

後にバッドトルツボーイズ聖歌隊の歌とパイオルガン演奏がひろうされました。昼から授賞記念講演がありました。

会場内には円形のスタンドコーヒショップが数ヶ所設置され、バイエル社等薬メーカーの展示や本屋がありました。ウエルカムパーティはオクトーバーフェストという大ビアホールに二百名が招待を受け、ショーを見ながら大ジョッキのビールで乾杯して友好を深めました。FIPニュースは一日お



きに発行され、学術発表は病院薬学関係を聞ききました。演者等より発表論文をいただき、それを日本病院薬剤師会雑誌のFIP特集に載せましたので興味のある方はご覧下さい。クロージングディナー&ダンスパーティはショーあり、歌ありで、私は着物を着てフィンランド人グループに入りました。外国では夏休みは六週間あり、仕事と結婚をわけて考えておらず、病院は千床〜三千床はさらにあり、フィンランド人は四ヶ国語を話すとのこと。六日はFIP主催の第一回ゴルフコンペに参加いたしました。四十人中、日本人は私ただ一人。ルールの違いや一日がかりのゴルフを体験しました。午前はプロによるレッスン。昼はプレレ。プレレ後は三時間かけてのディナー。その後ダンスタイム。こちらはアフターゴルフを楽しむ為に泊まること。女性優勝。帰りはハイデルベルグにある薬事博物館を見学し、ロマンチック街道を通ってきました。又、今大会のポスターは薬事博物館内の写真でした。

大学卒業後、すぐに佼成病院薬

剤科に就職して勤続二十二年。視野を広げるために年休、自費で参加いたしました。

来年はトルコのイスタンブールで、数年後には日本でFIPが行われる予定です。

英会話をしつかり勉強してFIPが日本で行われる時は学会発表もしてみたいし、お手伝いもしたいと思っております。

雑感

飯島康典（十二期生）

朝日新聞の社説で「日本は不思議な国だ。医師は薬を売ってもうけ、薬剤師はチリ紙を売って生計をたてている。専門職としてのプライドを捨ててしまったのだろうか、欧米の医師や薬剤師はしばしばこういって首をかしげる」と書いてあるのを読んだことがある。今、小売薬業界は、ただの物品販売業に墮落しつつあるのではないだろうか。大学で四年間も薬学を勉強した専門的知識を生かせずにもがいているのではと！ 小規模開局薬剤師は、薬局経営の明確なコンセプトをもたずに、何をした

らよいか迷っている。また、これではいけないと協業グループに入り、「寄らば大樹の陰」と自分の経営方針もなく、取りあえず加盟し、薬剤師の権威を捨てた薬局など色々ある。

第二次医薬分業といわれる中、開局薬剤師は、専門性を生かして地域社会活動を活発にし、消費者とのコミュニケーションを密にする中から、消費者に必要なニーズを積極的に創造し付加価値の高い接客をするところに、存在意義があるのではないだろうか。地域住民の熱い支持を得る薬局は明確なコンセプトをもったところ。薬局店頭に薬学を！
自己紹介が遅れましたが、私の薬局は面分業の先進地といわれる長野県上田市です。

草かんむりの中で

小暮 渉 (十一期生)

同窓会の幹事をお引き受けして三年になる。仕事の都合で、幹事会には欠席が多いのだが、それでも幹事の皆さんが「出られるときに出てくれば良いから」と励まし



て下さるので、ズルズルと今日までつづけている。たまにしか出席できない幹事会だが、私にとって楽しいひとときである。

年齢も違い、職業も種々様々な先輩や後輩と、利害関係のない気楽な話ができる。そして全員に共通していることは、同じ大学の同じ学部に進んだことがあって、同じ恩師を持っていること。

会議そのものはあまり時間はかからないが、その後の「ちょっとイッパイ」が、ちょっとではすまなくなることが多い。これが楽しい。厳しいばかりだと思ってい

た教授の、ほのぼのとするようなエピソードあり。ごぶさたしているクラブの先輩の消息あり。共通の知人・友人の意外な側面が暴露されたり……。

卒業と同時に出版社に勤務、「薬にさわったことがない薬剤師」の私にとって、「薬」の世界で活躍している皆さんのお話しは、聞いているだけでも珍しく、新鮮に感じられる。

卒業間近のある日、家庭教師に行っていた生徒の父君に「『薬』という文字は草かんむりに楽しいと書くでしょう。あなたは薬学部

出身なのだから、この草かんむりに入る資格がある。そして、意外に狭いのが、この草かんむりの社会です。草かんむりの友達を大切に「なさい」と言われたことがある。薬にさわっていなくても、日ごろお目にかかる人々は「草かんむり」の中の人々が多い。有難いアドバイスだと、今も忘れずにいる。

編集後記

会報はやっと三歳。そろそろ会報の特徴を打ち出したいとおもいますが、まだまだ一人歩きにはほど遠い。今回もほとんど依頼稿となってしまったのが残念。ぜひ皆様がたの投稿をお願いしたい。地区レポーターの誕生などを夢見ている。同窓生が積極的に参加した紙面作りを祈りつつ。(T・U)
石の上にも三年。いつも滑り込みセーフ。どうかでできたぞ、第一号。もっと早く準備しておけばギリギリになってあわてなくてもすむのは原稿も学生時代の試験も同じ。

理化学機器製造販売 (株)木村理化学製作所

東京都墨田区京島1-27-14
TEL 03 (617) 1025
FAX 03) 617) 1043

今号から八ページになりましたので、紙面に余裕ができてきました。同窓諸氏の近況など、気軽に書いてみて頂けませんか。お便りをお待ちしています。(W・K)

「東京理科大学

薬学部同窓会会報」

平成2年3月15日発行

〈非売品〉

編集・発行 東京都新宿区市谷船河原町12
東京理科大学薬学部同窓会

印刷・モリモト印刷株式会社